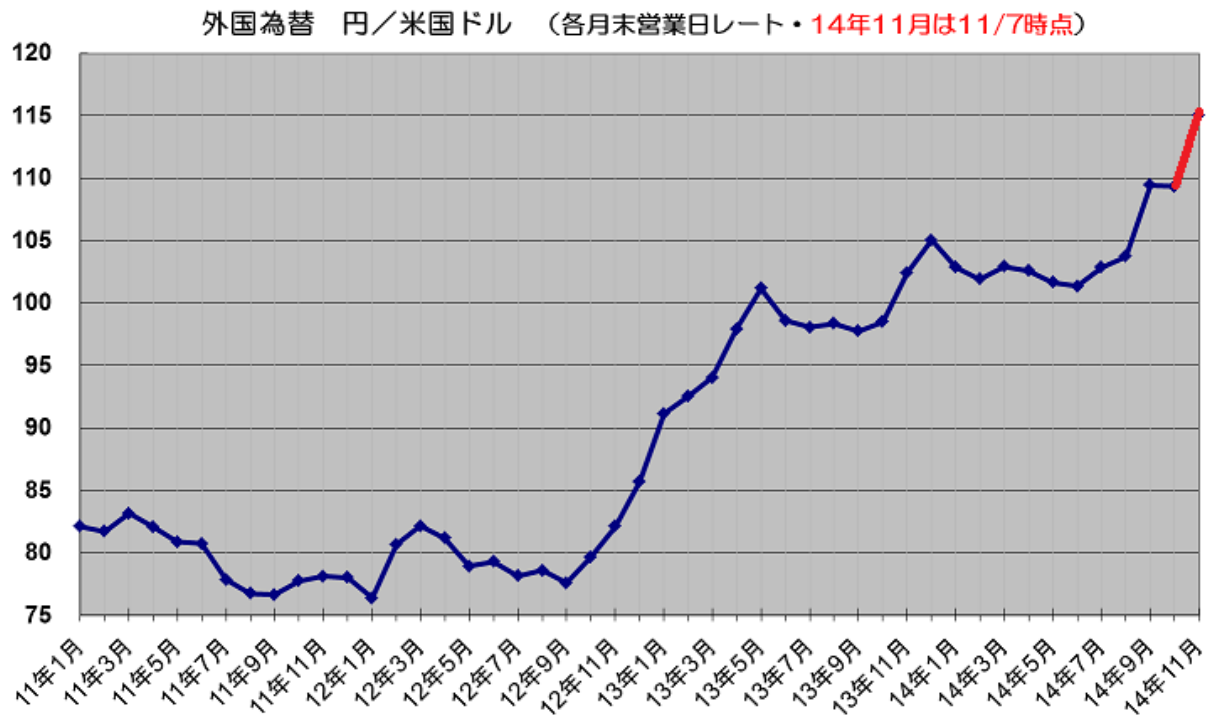


輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

外国為替（対米国ドル）の影響 7年ぶりの115円台



円高・米国ドル安の勢いが、止まりません。14年9月末は109円/ドル台まで円安が進み、10月以降に入船する輸入粗飼料の価格（円貨）に影響がはじめていますが、11/6-7は115円台を記録し、約7年ぶりの円安水準となっています。このまま推移すれば、今月下旬以降に入船する輸入粗飼料の価格は、さらに値上がりすることとなります。

品目・草種により異なりますが、7年前の115円台（07年9月末；115.4円/ドル）のときよりも、産地価格は50-150ドル/トンも高く推移しています（同一グレード比）。現在は、産地価格がドル建てで高いがゆえに、今後も少しでも円安が進むと円貨では大きな“値上げ”となります。一部の草種では、酪農向けには費用対効果のある価格ではなくなっているものも見受けられるため、他草種への移行や、グレードを落として使用することも、ますます検討する必要があると思われます。

北米コンテナ船情勢 “プレ・ロックアウト” 開始と港湾の混雑

産地では、6年ごとに更新されている米国西海岸港湾での労使協定が、14年6月末で失効となっています。雇用主PMA（Pacific Marine Association：船会社やターミナル運営者で構成される使用者団体）と、労働組合ILWU（International Longshore and warehouse Union：西海岸各港の港湾労働者で構成される労働組合）との交渉は職域の問題を中心に引続き行われていますが、10月末からILWUにより、主要港のなかで最北端に位置するシアトル／タコマ港で、スローダウン（荷役作業を故意に遅らせる）戦術が行われ始めました。これに対抗し、PMA側も労働者に対して帰宅勧告を発令し、現地時間の11/5から遂に同港での荷役作業が中断され、港湾がクローズしている“プレ・ロックアウト”の状態となっています。12年前の西海岸での港湾施設のロックアウト（使用者による労働者に対しての職場封鎖）も、スローダウン戦術がきっかけとなって各地に飛び火して10日間に渡って実施され、輸入粗飼料もデリバリーの回復に半年以上を要した史実があります。11/6も労使交渉が継続されている模様ですが、今後も動向については、細心の注意が必要です。

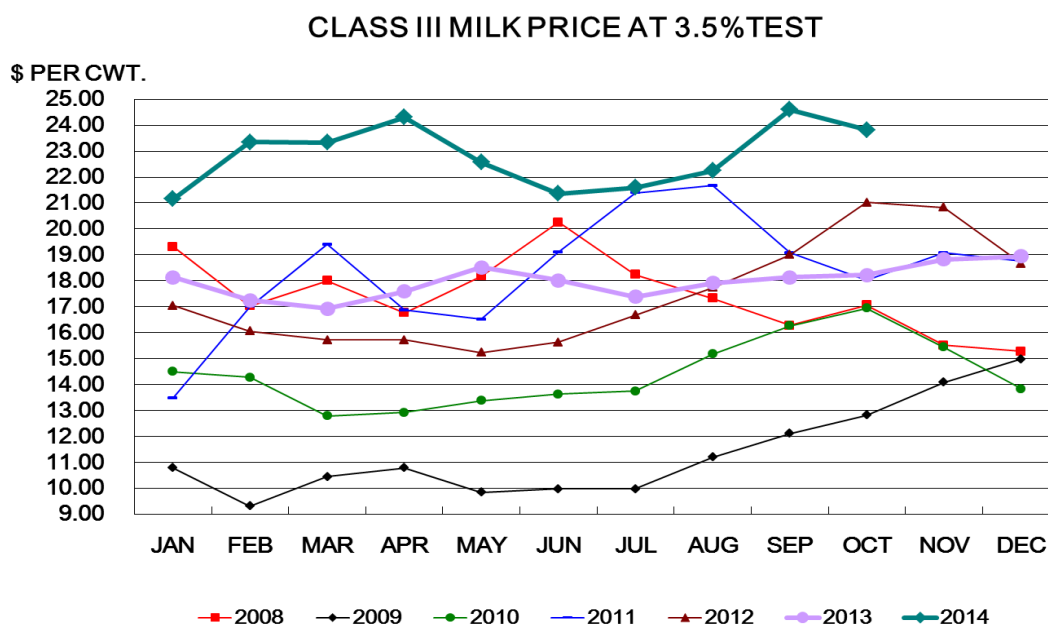
ターミナルの統廃合などにより、慢性的に混雑をしているオークランド港でも船積みの遅延が発生していますが、現在はロサンゼルス／ロングビーチ港でも非常に混雑をしており、深刻な事態となっています。主な要因として、中国の国慶節（10/1-7の大型連休）が挙げられます。大型連休前に中国から船積みされた輸入貨物で、同港のターミナルは溢れ、それでもコンテナの置き場が足らず、数隻が荷役できずに沖待ちしている状況です。そのため、輸出貨物も満足に搬入できず、船積みに深刻な遅延が発生しています。もう一つの要因として、シャーシ不足が挙げられます。同港では船会社によるシャーシの無料貸出しが既に終了していますが、それを甘く考えていて、シャーシを十分に準備していなかった北米側の輸入業者が、コンテナを引取りできないケースが続発していると言われています。そのため、輸入貨物の搬出が鈍り、混雑に拍車をかけています。このような状況は、少なくとも今月下旬まで続く見通しと言われていましたが、上記の労使交渉に絡むスローダウン戦術は、既に主要港の中で最南端に位置する同港へも波及していると言われ始めているため、さらに混乱することが懸念されています。今後も動向については、細心の注意が必要です。

また、海上運賃について、現在は底辺にあると言われていますが、どの船会社もコンテナ部門の採算悪化が続いています。そのためGR1（General Rate Increase：基礎レート）は、12/1付けで値上げ実施を案内し始めている船会社が多い模様です。特にロサンゼルス／ロングビーチ港は、前述の通り、非常に混雑をしているため、同港出しの航路は値上げが避けられない状況にあるとも言われています。

米国の乳価動向 史上最高値の水準で推移

米国の乳価（下記グラフ参照）は、14年9月に再び24ドル／100ポンドを超え、10月は少し軟化したものの、23.8ドルと未だに高い水準となっています。乳製品の国際相場価格は、以前よりも軟化して推移していることから、来春以降は米国乳価も軟化傾向にあると予想されていますが、直近ではそれほど大きく軟化をせずに推移しています。

14年1－10月の米国の乳価は、21ドルを下回ることなく、史上最高値の水準で推移しており、14年産アルファルファの産地価格高騰の最大の要因となりました。米国の酪農情勢・乳価動向については、14－15年産の輸出向けアルファルファの産地価格・情勢にも大きな影響があるため、今後も注意が必要です。

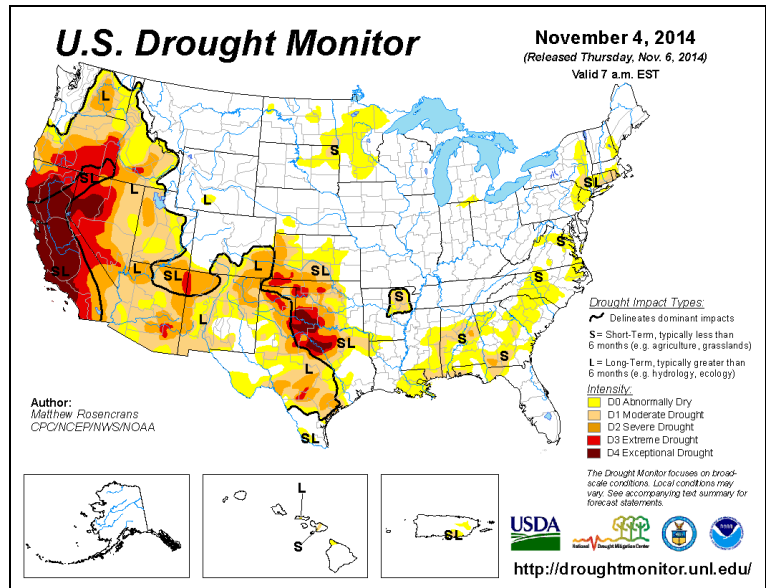
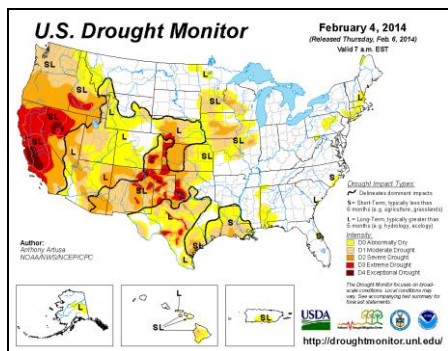


米国乳価グラフ：クラスⅢ チーズ向け CWT（100ポンド≒45.4kg）当たり \$

カリフォルニア州の旱魃の状況

昨冬からカリフォルニア州中央部およびネバダ州北西部周辺では、旱魃（干ばつ）傾向が続いていますが、一年近く経った現在でも回復せず、むしろ酷く悪化しているのが現状です。今年の春には、放牧用の牧草の生育にも影響が出たため、肥育農家からも乾牧草の引合いが強まり、アルファルファの作付面積や生産量への影響も懸念されたことから、14年産アルファルファの産地価格高騰の要因の一つとなりました。

全米一の酪農生産地帯も有するカリフォルニア州での旱魃傾向について、来春には回復するか、農業用水は潤沢に利用できるかどうかは、水源となるカスケード山脈やシェラネバタ山脈に、この秋冬にどれだけの降雪量があるかがカギを握っています。



米国内の旱魃（Drought）状況 （左）14年 2/4時点 （右）14年 11/4時点

（米国農務省ほか資料より）

カリフォルニア州中央部およびネバタ州北西部周辺は、例外的に（Exceptional）ひどい旱魃、あるいは異常なほど（Exceptional）ひどい旱魃となっており、9ヶ月前よりも悪化している。



カリフォルニア州北部 シヤスタ山（標高4,317m・カスケード山脈の南部にある火山） 10/28撮影

中東・中国向けアルファルファ需要動向

14年産の米国産アルファルファについては、高騰している産地価格の影響もあり、UAE（アラブ首長国連邦）向けは、あまり積まれず、スペインや南アフリカ、エジプトなどから輸入をしているとも伝えられていますが、中国向けは、今年も昨年を上回るペースで積まれています。

中国向けは、電話やメール一つで一回に何千トンも買付けをする、とまで言われており、すぐに増やせるだけの潜在的な需要が十分にあります。UAEと中国向けは、米国産アルファルファの輸出向けの中で58%（日本向けは約25%）まで占めており、今後も両国の動向には注意が必要です。

米国産アルファルファ年間輸出数量 (MT) 米国農務省海外農務局資料より 2014年は1-9月

米国産 アルファルファ 輸出量 (1-12月)

数量;mt

	2005年	シェア%	2006年	シェア%	2007年	シェア%	2008年	シェア%	2009年	シェア%
日本	614,367	71.5	559,523	69.2	490,106	65.5	558,538	60.8	686,148	44.4
韓国	100,161	11.7	127,832	15.8	134,489	18.0	159,235	17.3	159,460	10.3
UAE	9,299	1.1	18,621	2.3	27,946	3.7	103,419	11.3	495,432	32.0
台湾	47,308	5.5	52,633	6.5	54,227	7.2	51,248	5.6	47,918	3.1
中国	251	0.0	420	0.1	2,321	0.3	19,348	2.1	74,985	4.8
ベトナム	452	0.1	135	0.0	1,117	0.1	1,248	0.1	1,817	0.1
サウジアラビア							130		1,329	0.1
オマーン										
カナダ	61,745	7.2	39,265	4.9	32,183	4.3	21,575	2.3	61,978	4.0
その他	25,637	3.0	10,338	1.3	6,116	0.8	4,142	0.5	17,820	1.2
合計	859,220		808,767		748,505		918,883		1,546,887	

	2010年	シェア%	2011年	シェア%	2012年	シェア%	2013年	シェア%	2014年1-9月	シェア%
日本	540,365	37.4	585,186	36.5	452,056	25.7	448,391	22.7	321,004	24.9
韓国	151,613	10.5	166,125	10.4	144,352	8.2	144,989	7.3	120,124	9.3
UAE	412,901	28.6	527,456	32.9	596,715	33.9	662,552	33.6	240,776	18.7
台湾	91,472	6.3	97,904	6.1	74,265	4.2	66,542	3.4	53,589	4.2
中国	140,362	9.7	177,374	11.1	359,145	20.4	575,282	29.1	505,019	39.2
ベトナム	5,738	0.4	10,982	0.7	6,162	0.4	14,262	0.7	9,795	0.8
サウジアラビア	3,324	0.2	111	0.0	2,430	0.1	18,854	1.0	13,091	1.0
オマーン					74,513	4.2	26	0.0		
カナダ	76,664	5.3	21,165	1.3	26,488	1.5	26,513	1.3	15,331	1.2
その他	20,596	1.4	16,098	1.0	22,519	1.3	16,666	0.8	10,331	0.8
合計	1,443,035		1,602,401		1,758,645		1,974,077		1,289,060	

ビートパルプ

<米国産>

14年産のビート大根の収穫は9月上旬より開始し、9月中旬から各地で製糖作業が開始しています。ビートパルプの輸出向けの主産地であるミネソタ州とノースダコタ州では、春先に冷涼な気候が続いていたため、単収は例年よりも少なく、ビートパルプの生産量は、前年対比10%前後の減少と見込まれています。

アルファルファ

<ワシントン産>

主産地のコロンビアベースンでは、4番刈の収穫が終了しています。一部の圃場では5番刈の収穫が進んでいますが、単収は少なく、乾燥も間に合わないため、大半が国内向けとなる見込みです。14年産は、1番刈こそ5年ぶりに雨当たり被害が少なく、比較的良好な作柄となりましたが、2番刈以降は雨当たり被害が多く、ノーレイン品もドライな仕上がりで、全般的に良品は少ない傾向となっています。

<オレゴン産>

クラマスフォールズでは、3番刈の収穫が終了しています。雨当たり被害はほとんど発生していない模様です。クリスマスバレーでも、3番刈の収穫が終了しています。

早めに収穫された圃場は降雨を免れましたが、多くの圃場で雨当たり被害が発生しています。クリスマスバレーでは1番刈で50%、2番刈で70%程度の雨当たり被害が発生したため、14年産はどの番手でも良品が極端に少ない傾向となっています。

<ネバタ産>

1-2番刈で、40-50%程度の雨当たり被害が発生しました。産地では3番刈の収穫が終了しており、一部で雨当たり被害があったと伝えられています。ネバタ州でも、14年産はどの番手でも良品は少ない傾向となっています。

14年産の米国産アルファルファについて、ワシントン産、オレゴン産、ネバタ産だけではなく、アイダホ産、ユタ産、インペリアルバレー産も、雨当たり被害が多く発生しました。したがって、アルファルファの生産量は増えていると見込まれていますが、良品は西海岸全体で不足している結果となっています。

米国内は酪農向け、肥育向けともに引合いが強く、輸出向けも強いままで推移しています。UAEや中国向けだけではなく、韓国向けも荷動きは順調で、為替ウォン高の影響もあり、価格より品質を重視する顧客も増えていると言われています。

西海岸全体のアルファルファの生産量のうち、3%未満（輸出向け約11%のうちの約25%）しか出荷されていない日本向けの意向は届きにくく、全体の需給のバランスから考えて、今後も14年産アルファルファの産地価格が極端に下がることはないと考えられています。15年産は作付面積が増える見込みで、トウモロコシなどの穀類の相場価格は軟化傾向にあるため、アルファルファの産地価格も軟化することが期待されますが、米国の乳価や、カリフォルニア州の旱魃、牛肉の相場価格次第では、軟化することなく推移する可能性もあります。今後の動向には、注意が必要です。

チモシー

<米国産>

主産地のコロンビアベースンとエレンズバーグでは、2番刈の収穫が既に終了しています。春から夏にかけて温暖な気候が続いたため、コロンビアベースンでは3番刈まで収穫されている圃場も見受けられます。14年産の1番刈は雨当たり被害がほとんどなく、3年ぶりに良好な作柄となりましたが、2番刈では40-50%程度の雨当たり被害が発生しました。

1番刈の産地価格は、13年産に比べて軟化傾向にはありますが、期待されたほどの値下げには至らず、同じく作柄が良かった3年前よりも高値で推移しています。韓国向けはアルファルファと同様に品質重視の顧客も増えており、チモシーも今年はハイグレード品の引合いが多いと言われています。また、カナダ産の作柄が14年産

でも芳しくないことから、日本向けの出荷も順調な模様です。したがって、14年産の米国産チモシーの産地価格は、これ以上は軟化することもなく、堅調に推移することが予想されています。為替円安の状況下で、特に酪農向けには、費用対効果のある価格帯ではなくなっているのが米国産チモシーの現状ですが、14年産についても、引続き他草種への移行も検討する必要があると思われます。

<カナダ産>

レスブリッジ（アルバータ州南部・灌漑地域）では、2番刈の収穫が終了しています。1番刈は収穫期の天候に恵まれず、昨年までと同様に14年産でもハイグレード品の発生は限定的で、大半が中間グレード品以下の品質となっています。2番刈では少し回復しましたが、中間グレード品が中心の作柄となっています。

クレモナ（アルバータ州中央部・非灌漑地域（ドライランド））では、8月上旬から天候が安定せず、レスブリッジよりも作柄は悪く、過去最悪に近いほど深刻な状況となっています。ハイグレード品の発生は限定的で、大半がローグレード品中心の品質となっており、輸出不適格な酷い雨当たり品も多く発生している模様です。

両産地とも米国産と同様に、1番刈の産地価格は13年産に比べて軟化傾向にありますが、作柄が悪いため、徐々に高くなりつつあるのが現状です。品質についても、14年産では米国産より芳しくない傾向にあるため、引続きカナダ産チモシーは他草種への移行も検討する必要があると思われます。

スーダングラス

<インペリアルバレー産>

産地では2年続けて小麦の作付面積が減少したため、14年産もさらに早播きスーダングラスの作付面積が増えました。2回の収穫が可能な早播きが増えていることから、14年産スーダングラス全体の生産量は、昨年よりも増加しているの見込まれています。早播きの1番刈の品質は、茎細のハイグレード品も、中間グレード品も、今年はスタック内で茎サイズのバラつきはあまりなく、揃っている傾向にあり、前半戦は過去3-4年で最高の作柄であったとも言われています。

2年以上にわたって低迷していたデュラム小麦の相場価格ですが、9月より値上がりして推移し始めている模様です。今後のデュラム小麦の相場価格によっては、15年産の早播きスーダングラスの作付面積は減少することが、早くも懸念されています。

ハミューダ

インペリアルバレーでの14年産の作付面積について、10/15時点でのエーカーレッジレポートによると、前年対比94%の49,516エーカーとなっています。

例年1番刈は種取り用の圃場が中心で、バミューダハイの生産は2番刈以降が中心となり、14年産では収穫がほぼ終了していますが、豪雨や湿度の影響で、良品の発生は限定的となっている模様です。

クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）

インペリアルバレーでの14年産の作付面積について、10/15時点でのエーカーレッジレポートによると、前年対比94%の16,659エーカーとなっています。3番刈以降では、豪雨や湿度の影響も一部で見受けられましたが、輸出向けの需要を賄えるだけの生産量は十分にあると考えられています。

産地価格について、韓国向け、日本向けともに引合いが強くなっているため、軟化せずに引続き堅調に推移していると伝えられています。それでも、クレーングラスは禾本科牧草の中では相対的に割安感があるため、他草種から切り替えて使用することも有益であると思われます。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

14年産の米国産（主にオレゴン産）ストロー類について、トールフェスク、ペレニアルライグラスともに、既に収穫が終了していますが、どちらも深刻な雨当たり被害が発生しています。トールフェスクは70%程度、ペレニアルライグラスは50%程度の雨当たり被害が発生している模様です。

米国産ストロー類は、韓国向け、日本向けともに引合いが弱くなっており、需要が減退しているとも伝えられていましたが、徐々に回復しているとも言われています。14年産では供給余力の懸念もあるため、産地価格は今後どのように推移するか、予想が難しい状況となっています。

豪州産オーツハイ

<西豪州産>

14年産の収穫は、ほぼ終了しています。9月下旬から降雨が続いたため、雨当たり被害が多く発生しています。雨当たり被害を免れた圃場のスタックも、刈遅れ品となっているため、ハイグレード品の発生は限定的になることが見込まれています。

安定的な収益が見込める小麦やキャノーラ（菜種）の作付けが増えていることから、オーツハイの作付面積は、10-20%程度減少していることが予想されています。

<南豪州産>

14年産の収穫は、ほぼ終了しています。収穫時期に降雨がありましたが、被害は最小限に留まっていると言われています。収穫されたオーツハイのうち、40%程度

がハイグレード品となっているとも伝えられています。

<東豪州（ヴィクトリア州）産>

14年産の収穫は、終盤戦を迎えています。収穫中は天候に恵まれたため、収穫されたオーツヘイのうち、70%程度がハイグレード品となっている模様です。この地域は早魃傾向で、放牧用の牧草の生育にも影響が出始めていることから、14年産のオーツヘイに対しては、国内向けの引合いが強くなることが予想されています。

以 上